



ふれあい 放水路

1994
(平成6年)
第2号
5月



斐伊川放水路 起工式行われる

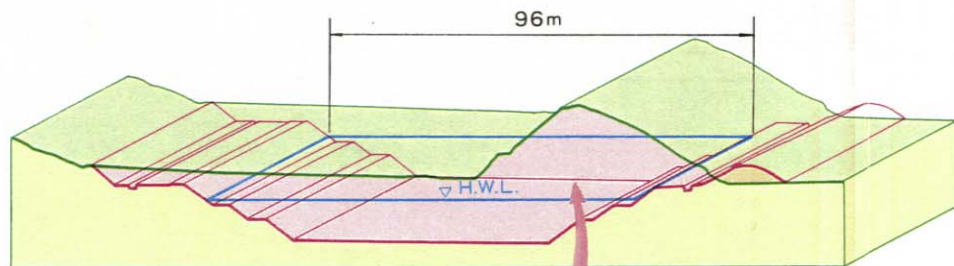
「現代のおろち退治」といわれております斐伊川放水路の起工式が五月十二日、中国地方建設局の主催により、地権者の方々をはじめ関係の人々約三三〇名の出席のもと、地元選出の国会議員、島根県知事、出雲市長、及び大社町長等の方々を来賓に迎え盛大に行われました。

式典は、中国地方建設局長の式辞に始まり、建設大臣(河川局長代理)の挨拶、出雲工事事務所長の工事計画の説明、来賓の挨拶の後、クワ入れ、出雲二中のプラスチックバンド演奏の中、祝賀装飾されている二台のブルドーザーが盛土を切り開き、その中を工事用車両が行進して放水路工事の開始を告げました。

その後、会場を出雲トームに移し、島根県と斐伊川水系治水期成同盟会主催による祝賀会が行われ、特設ステージでの神戸川太鼓、出雲神楽「八岐のおろち」のアトラクションの後、万歳三唱で閉会しました。

上の写真は「現代のおろち退治」のクワ入れの様です。自然を生かした川づくり、みなさんがくつろげる水辺づくりは、しまりです。

開削区間大井谷付近(河口から10.6 km)



開削区間ではこれだけの山を掘削し、多くの土砂(残土)が発生します。この残土処理の方法は次号で説明します。

放水路事業の概要

斐伊川放水路は、斐伊川左岸の出雲市大津町^{くりはら}原付近から菅沢、大井谷^{かみえん}を経て上塩治町^{はんぶ}半分までの4.1kmの区間を96mの川幅で全面開削し神戸川に合流させます(開削部)。合流点から河口までの9kmの区間については、神戸川の川幅を合流点下流付近で300m、河口付近では370mに拡幅します(拡幅部)。また、合流点より上流の神戸川本川および支川の稗原川、新宮川の影響区間の改修も併せて実施します。

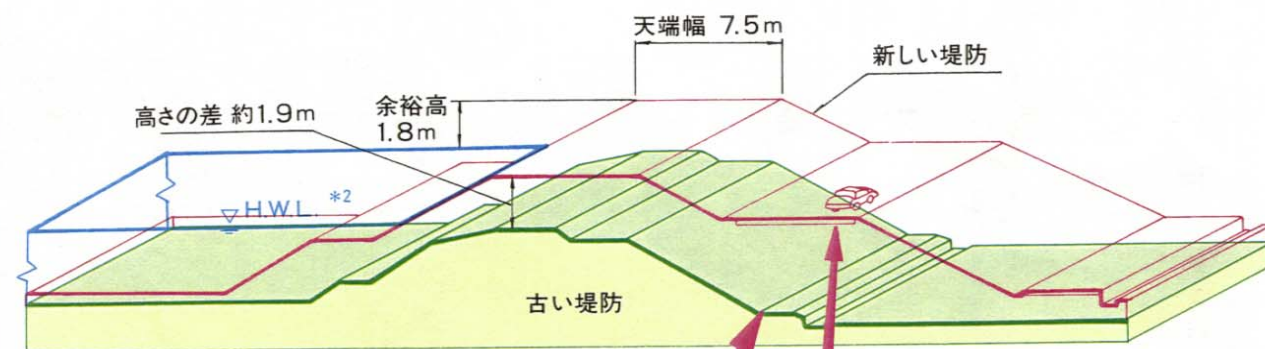
主な工事の内容としては、掘削土量が約1600万³m、築堤土量が約400万³mです。また、橋の架け替え・新設は主なものだけでも25橋あり、斐伊川分流部の分流堰^{ぶんりゅうげき}、神戸堰の改築、新内藤川水門などの河川構造物を建設します。

事業にかかわる用地面積は約322 ha、移転家屋は437戸です。

けん・せつ豆知識

川の右岸・左岸とは、川の上流から下流に向かって右を右岸、左を左岸といいます。

神戸川の堤防がこんなに大きく、より丈夫になります!



断面積で約2.5倍
高さで約1.4倍

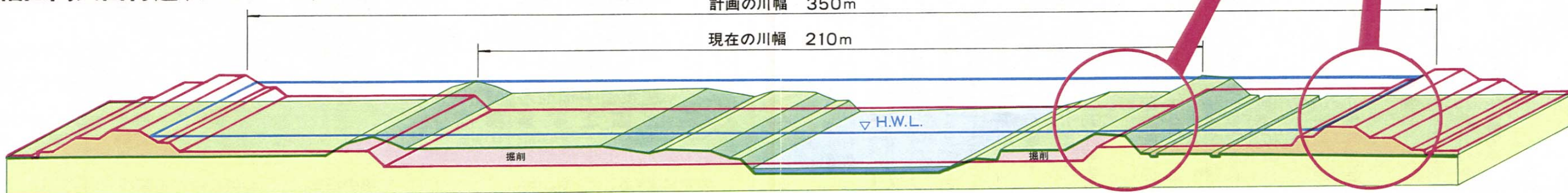
けん・せつ豆知識

H.W.L.*2とは、**High Water Level** (計画高水位) 計画している流量が安全に、流れる水位のことです。

拡幅区間大曲付近(河口から4 km)

計画の川幅 350m

現在の川幅 210m



— 拡幅前
— 拡幅後

こ〜んなに広がります!

川幅で約1.7倍

工事情報

コーナー

新宮川にかかる神門塚橋の改築

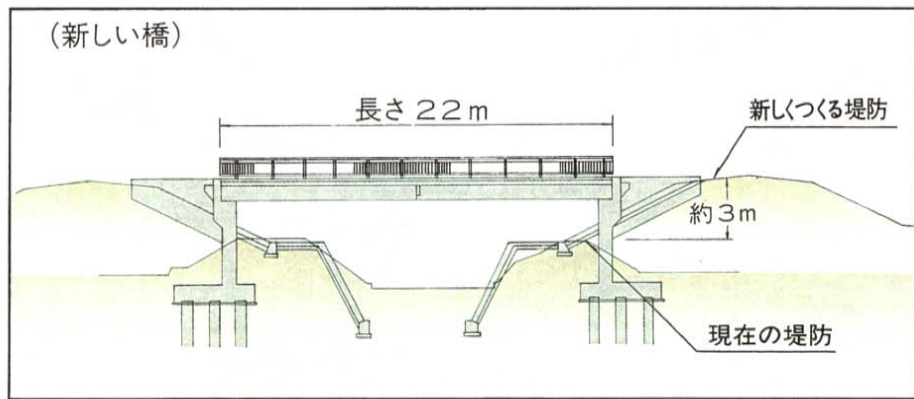
斐伊川放水路（拡幅部）は、現在の神戸川の堤防を広げ、高くしてつくられますが、神戸川に流れ込む新宮川にも大きな堤防が必要になります。それと同時に、現在新宮川に架けられている橋も架け替える必要があります。

その一つである神門塚橋は、斐伊川放水路事業と土地改良事業との合併施行で、橋の長さが22m、幅は現在4mのもの7mとなり、高さは現在より約3m高くなります。本格着工第一号の橋となる神門塚橋の工事は、平成六年三月までに橋の土台となる下部工事を行いました。今年度は上部工事とその取付道路を完成させる予定です。

工事箇所



橋の構造



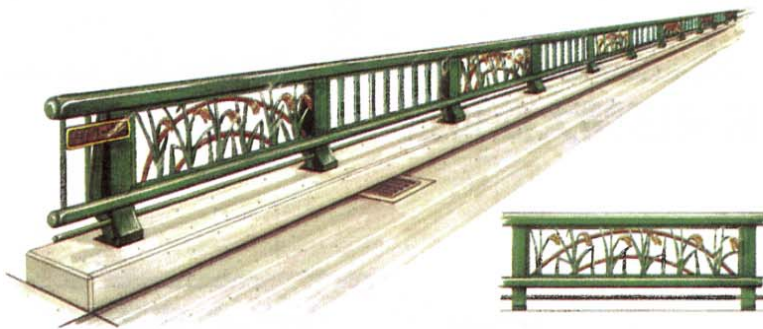
「懐しいあの頃」

昔の神戸川の写真をお送りください。なお、写真を提供していただいた方には、お返しする際に引き伸ばしパネルを差し上げます。



**建設省中国地方建設局
出雲工事事務所**
〒693 出雲市塩冶有原町5丁目1番地
☎(0853)21-1850

神門塚橋イメージ図



稲穂とそれに架かる虹を表現しています。

工事の担当は、建設監督官と工務課河川工務第一係です。
よろしくお願ひします。

本紙に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。
問い合わせ先：ふれあい放水路担当